

# 春分儀式

---

I :: O :: S :: 儀式魔術文書 VE04A



THE OFFICIAL ORGAN  
OF  
I :: O :: S ::

PUBLICATION IN CLASS D  
IMPRIMATUR : M FRATER I::O::S::

THE SPRING EQUINOX CEREMONY FOR ASTRAL WORKING  
I :: O :: S :: ASTRAL TEMPLE WORKING

## 第1章 解 説

本儀式は、小規模な団内グループ(ロッジ単位程度)が、簡易な準備で行える霊的集合儀式(Astral Temple Working)として作成した。従って、実行儀式よりも簡略化した部分がある。

《春秋分点》は、「均衡と調和」を表象する宇宙的な時刻である。年に2回の分点において、太陽の運行または振動と地上の四大元素が融合する。本儀式は、原則的に春分点の前後48時間以内に実施すること。

儀式内容は、エグレゴレとの邂逅を軸に春分の祝祭を実施する。

### 1 エグレゴレ

現代の神秘学用語としてのエグレゴレ(Egregore、またはEgregor)は、神話の枠組みを超えた複雑な意義をもつ。『エノク書』に語られる墮落した「見張り」と呼ばれる者たちの神話の中核部分は、天使が人間の女と交わり、巨人を産ませ、妻たる人間や子どもに禁じられた智慧を与える。しかし、巨人たちは地上の資源を使い尽くし、人間を食べ、お互いに争ったため、天使の軍団が差し向けられ、人間と交わった天使を捕らえ、巨人たちを悉く誅殺したという物語である。エノクの関わる後日談には、この墮落し破滅に瀕した天使たちから神への取りなしを頼まれ、神の拒絶をエノクが伝える件がある。

たとえば、『哀歌』4章14には、次の記述がある。

「עֲוֵרוֹרִים בְּהוֹצֵאתָם לָאֵשׁ בְּכִלְכִּילָם יָגֵעוּ בְּלִבְשֵׁי יָגֵעוּ  
(かれらは盲人のように巷に彷徨い、血で汚れている。誰もその衣に触れることができない。)」

ここでは「盲人たち」、עֲוֵרוֹרִים(OVRIM イウリム)という単語(単数形: עֲוֵר OVR イウール)が使われている。「盲人」とは『イザヤ書』などでは、「無知の闇のなかを歩く者の寓意」を意味する。

ところで、古代アレキサンドリアにおいて最初のギリシャ語訳校訂版聖書として作成された『70人訳聖書(セプトゥギアンタ)』では、この単語は「見張り」と訳されている。

見張りに該当するヘブル語は,עֵיר(OIR イル)である。この単語は、本来は「都市」または「物見の塔」(Watch Tower)を意味する。シリアでは天使の古名であり、大天使ガブリエルの異名でもある。

ヘブル語のעֵיר(盲人)とעֲוֵר(見張り)では、ヴァウとヨドの1文字違いであり、この単語はしばしば混同された。しかし、アレクサンドリアに集合した72人のラビが、そんな単純な間違いを犯したのか?

もうひとつ『ダニエル書』4章10(注:ヘブル語聖書正典『כּוּמְרָן』の番号による。日本で普及している日本聖書協会編纂の『旧約聖書』では、4章13になるので注意されたい。)には、次の記述がある。

「...וְיִרְדּוּ קְדָשִׁים וְשָׁמַיִם יֵרְדוּ(見張りとは聖なる者が天から降り来たり)」

ここでは、最初からעֲוֵר(見張り)という単語が用いられている。

そして、『70人訳聖書』には、この単語の翻訳が2種類あった。

「見張り」を意識した ἐγρήγορος(egregoros エグレゴロス)と音訳の εἶρ(eir エイル)である。

この単語エグレゴロスとは、ἐγείρ(egeiroエゲイロ 起きる、見張る)を語源とした単語である。文字通り、「目覚めたる者」、「見張り」を意味し、語感から都市の「夜警」または「警護者」を連想させた。

ここにエグレゴロスとエイルが2種類の訳語として現れたことから、現代の神秘学の用語エグレゴレの源泉が、天使存在のעֲוֵר(見張り)であることが判明する。

先程述べたとおり、『エノク書』は旧約聖書偽典である。

クムラン文書(いわゆる『死海写本』)が出土するまでは、『エノク書』は、エチオピア語訳とスラブ語訳の2種類しか知られておらず、その原典が何語で書かれたか不明であった。

しかし、クムラン第4洞窟から出土したゲニザの中にヘブル語及びアラム語による『エノク書』断片(Qumran 4Q203, 1Q23, 2Q26, 4Q530-532, 6Q8)が発見されたことから、この論争に決着がついた。ミリクによれば、前1世紀頃までに、5部構成の『エノク書』がアラム語写本の形で存在したと推定される。その構成は、次のとおり。

|     |       |        |
|-----|-------|--------|
| 1   | 天文の書  | 古代     |
| 2   | 不寝番の書 | 前3世紀   |
| 3 a | 巨人の書  | 前2世紀   |
| 3 b | 譬えの書  | 後270年頃 |
| 4   | 夢幻の書  | 前164年頃 |
| 5   | エノク書簡 | 前100年頃 |

これらの各文書のなかでも、古い時代に残された物語と比較的後世に追加された部分があると推測されている。また、流布された版によっては構成そのものに大きな異同がある。

クムラン文書のなかには、「3b 譬えの書」は含まれておらず、その代わりに「3a 巨人の書」が入っている。なかでも『巨人の書』は、後世にマニ教の聖典として広く知られることとなる。マニは、ユダヤ教の物語の枠組みを借り、『巨人の書』の内容を膨らませた。見張りの長シエミハザの二人の息子が登場し、そのひとりオイヤ（オギア）は悪竜と格闘し、アハヤ（パット＝サム）は人間の敵と戦う。この巨人たちと怪物、巨人同士の戦い、巨人たちと神の戦いが記述され、四大天使の勝利に終わる。

このマニ教版『巨人の書』があまりにも有名になったため、オリジナルの『巨人の書』が、キリスト教、ユダヤ教の正典から除外されたのだという説もある（ミリク）。

ともあれ、原典のヘブル語／アラム語版は完全な形では現存していないが、われわれはギリシャ語、エチオピア語、スラブ語版でその全貌を知るとともに、『巨人の書』については、マニの著した拡大版をラテン語、ギリシャ語、中期ペルシア語などで知ることができる。

古来、魔術団体は、結社の構成員を支配する集団魂、または、結社のダイモンをエグレゴレ（Egregor, 又は、Egregore）と呼んでいる。

紙に書かれたものでは、エリファス・レヴィが一番古い。ディオ・フォーチュンの友人で、SOLの創始者でもあるW.E.バトラーは、『魔法入門』（角川文庫 1974年）において、次のように語っている。

「二人か三人、あるいはもっと多くの人々がある行動を行ったり、ある路線に沿って考えたり、感情的影響力を経験するために一つの場所に集まった時、そこにはその集団と関係する合成的集団意識と呼ぶべきものが形成される。・・・<エグレゴレ>を次のように定義してよいであろう。それは歴史の全体を通じて、特殊な礼拝や信仰をもつ信徒たちの統一された観念、感情、象徴的言葉及び行動などから『内面的世界』に合成されたある力である。・・・あらゆる魔法技術はそれにふさわしい伝統の『エグレゴレ』の中で行われねばならない。」（大沼忠弘訳 原著 1959年）

団の精神、結盟の精神（Esprit de corps）は団員の心をささえる防壁、信念の強化、教条から離反したときのプレーキ等、結社の結束力を高め、結社の構成員が求める集団的ゴールへ向かう見えない力流となるが、その人格化したものがエグレゴレである。

人格化したエグレゴレは、古くから知られていた。レダ・ジーン・キラオロは、論文『ギリシャ魔術パピルス文書における超自然的補助者』において、『ギリシャ魔術パピルス文書』における「補助者」（パレスロス）の役割について検討している。

呪符と「野蛮な名前」を用いて、魔術的力を媒介する「補助者たち」を召喚することができる。それはシャーマンの「介助者」と同様の機能を有し、様々な姿で出現する。

キラオロによれば、天使、ダイモン、人間、物体、そして極端な場合は神の姿を模す。しかし、「補助者」は魔術の公式に組み込まれた霊的機能であり、その姿を写した超自然的存在と同一ではないとされる。

高度な神聖魔術を駆使したイアンブリコスが、弟子たちに見せた泉の精エロスとアンテロスは、まさに、この「補助者」であったに違いない。実際に『魔術パピルス文書』のなかには、エロスと呼ばれる「補助者」も登場する。

かれらの機能は先に述べたように儀式を通して、術者をエンパワーメントすることである。そのために「補助者」を充填し、活性化するという事前の儀式を要する公式もあるが、「補助者」が出現すれば、儀式の目的を告げ、エンパワーの方向を示す必要がある。

## 2 司官の配置

### (1) 司官の指定

本儀式に必要な司官は、PRAECEPTOR (PC)、すなわち「先導者」の1名である。

PCは、黄金の夜明け団の伝統的な白の法衣を纏い。白のネミスをかぶり、マントやその他の役職記章はつけていない。右手に「ハイエロファントの棒」をもつ。それは神殿を開き、つなげる権威の象徴である。

他の参列者は、内陣団員は白の法衣と白のネミスを、外陣団員及びプロベিশヨナーは、黒の法衣と白黒縞のネミスをかぶり、手には何も待たず参集する。

ディオーン・フォーチュンの内光協会のアストラル神殿儀式では、参集者は儀式場に座ったまま、光体（かれらはアストラル体と呼称）を下位アストラル神殿に投射する。そのとき光体は全裸であり、神殿の着衣の間 (Robing Room) において、光の法衣を纏う。



### (2) トーラーの宰相の召喚

司官は、マルクト神殿で律法の公爵を召喚し、メタトロンの顕現たる大天使の長上が「肉の衣を去る」までは、実効上の神（天使を使役する者）として活動する。この場合「肉」とは、魔術師の「光体」のことである。

## 3 アストラル神殿の構造

マルクト神殿を使用する。

## 4 魔術の技法的側面

### (1) 四大の呼吸

この技法の原型は、エリファス・レヴィの「四の喚起」及びフランツ・バードンの「元素呼吸法」である。フランツ・バードンは、7回等の回数を定めて呼気と吸気を均衡させ、練習後に内部に元素を残さないことを注意しているが、本儀式では霊灯として外部に焦点を結ばせるため、均衡を特に重視していない。儀式終了後に体内に擾乱、不快感を感じる場合は、五芒星儀式等で排出すること。

### (2) 神聖名

7の封印を除き、本文の神聖名は『ラツィエルの書』から引用している。

## 5 身辺の準備

### (1) 部屋の準備

部屋を暖かくし、プライバシーを保護できるような態勢づくりをする。（家族に部屋に入らないように断ってからドアの鍵を閉める等）、携帯電話、アラームの類はあらかじめ切っておく。部屋の中央に快適な椅子か、ソファを置き、その他の不要なものを片づける。

今回の仕様では回転椅子が望ましいが無理ならどのような椅子でも良い。

何度も反復して練習し、象徴や、儀式の細部まで呑み込んでいても、外部の妨害ですべてが台無しになることもあり得る。準備は、怠りなく。

### (2) シナリオ

シナリオ文書を一部、手軽に確認できる場所に置く。

自分以外のパートの台詞とト書をテープに吹き込んでおく。

あなたの行動する部分は緑の文字で記してある。

神聖名を発音するときは、注意深く行うこと。

事前のリハーサルは勿論、必須とも言える。

### (3) 直前の手順

開始する前に手を洗い（儀式的沐浴）、法衣（または身体を締め付けない服装）に着替え、LBRPを行って椅子に座り、中央の柱の行法で活性化する。



## 第2章 儀式

### 1 神殿への入場

この準備的作業は、光体のレベルではなく、生身の肉体で行う。

参加者は、東に面して座り、目を閉じ、深く呼吸をする。呼吸は肺だけではなく、全身の皮膚を通して行う。一息ごとに、喉や鼻孔のみならず、全身の皮膚から、周囲に満ちている生気が肉体に吸い込まれ、全身の細胞を活性化する。

一息吸い込む都度、この地上世界の清浄なもの、力に満ち溢れたものが入り込み、肉体の隅々まで駆けめぐったあと、あなたの内部から不純なもの、不浄なものが吐く息とともに放出されると強くイメージする。この呼吸を数回、または納得のいくまで続ける。

次に「地の呼吸」を行う。目を閉じたまま、重く堅固な岩や土に覆われた大地の中心に自分が座っている様子をイメージする。その大地は柔らかな草葉の緑に覆われ、静かで、あなたのほかには誰も存在しない。しかし、心の目で見ると地の元素が休み無く動いているのがわかる。

あなたは、地の元素を全身を用いた呼吸で吸い込む。喉を通して肺を、皮膚を通して肉体の隅々まで、冷たく乾いた地の元素が緑の微粒子の渦として流れ込み、あなたの肉体と靈魂の容器を地で満たす。一呼吸ごとに、あなたの身体が重くなり、強固になり、地が充満していく。緑の大地のただなかに座りながら、あなたの身体が緩やかに大地と溶け込み、地そのものとなる。十分に納得できるまで、地と同化できたら、体内に溜め込まれた地の元素を呼気とともに吐き出す。

濃密な緑の息吹が、すばめたあなたの唇から噴出し、2メートルほど離れたところに、未成熟の麦穂のような、上向きに数百の緑の糸が絡み合うような渦を巻く。その緑の麦穂は、地の元素の結晶体であり、あなたの旅路を照らす地の霊灯である。

次に「水の呼吸」を行う。目を閉じたまま、大海原の中心に自分が浮遊している様子をイメージする。群青からエメラルド色まで、さまざまな青系の光に満ちあふれた水があなたの周囲を満たしている。そこには、あなたのほかには誰も存在しない。しかし、心の目で見ると水の元素が尽きることはない満ち引きの運動を繰り返しているのがわかる。それは現実の水ではなく、純化した水の観念なので、呼吸を阻害したり、溺れることはない。

あなたは、水の元素を全身を用いた呼吸で吸い込む。喉を通して肺を、皮膚を通して肉体の隅々まで、冷たく湿った水の元素が青い微粒子の渦として流れ込み、あなたの肉体と靈魂の容器を水で満たす。一呼吸ごとに、あなたの身体に清浄な水の霊気が充満していく。あなたの肉体のすべての細胞内に存在する内部の水と、この外部の水の霊気が精妙に溶け合い融和していく様子を感じなさい。十分に納得できるまで、水と同化できたら、体内に溜め込まれた水の元素を呼気とともに吐き出す。

濃密な青い息吹が、すばめたあなたの唇から噴出し、2メートルほど離れたところに、睡蓮の厚い花卉に見える渦を巻く。その青い睡蓮は、水の元素の結晶体であり、あなたの旅路を照らす水の霊灯である。

次に「風の呼吸」を行う。目を閉じたまま、広大無辺の空間に自分が浮遊している様子をイメージする。その空間はほのかに黄色く、あなたのほかには誰も存在しない。しかし、心の目で見ると風の元素が静かに流れているのがわかる。

あなたは、風の元素を全身を用いた呼吸で吸い込む。喉を通して肺を、皮膚を通して肉体の隅々まで、熱く湿った風の元素が黄色い微粒子の渦として流れ込み、あなたの肉体と靈魂の容器を風で満たす。一呼吸ごとに、あなたの身体が風船を膨らますように、風が充満していく。黄色い空間を浮遊しながら、あなたの身体が益々軽くなり、風そのものとなる。十分に納得できるまで、風と同化できたら、体内に溜め込まれた風の元素を呼気とともに吐き出す。

濃密な黄色い息吹が、すばめたあなたの唇から噴出し、2メートルほど離れたところに、タンポポのような幾千の花弁に見える渦を巻く。その黄色いタンポポは、風の元素の結晶体であり、あなたの旅路を照らす風の霊灯である。

次に「火の呼吸」を行う。目を閉じたまま、周囲の空間に熱と躍動する炎の柱が幾本もたつ様子をイメージする。その空間は、明滅する赤色の層に覆われ、あなたのほかには誰も存在しない。しかし、心の目で見ると火の元素が活発に運動しているのがわかる。

あなたは、火の元素を全身を用いた呼吸で吸い込む。喉を通して肺を、皮膚を通して肉体の隅々まで、熱く乾いた火の元素が赤い微粒子の渦として流れ込み、あなたの肉体と靈魂の容器を火で満たす。一呼吸ごとに、あなたの身体は、熱で満たされる。赤い空間を浮遊しながら、あなたの身体は、希薄に透明になり、挑戦的で、燃え上がる火そのものとなる。十分に納得できるまで、火と同化できたら、体内に溜め込まれた火の元素を呼気とともに吐き出す。

濃密な赤い息吹が、すばめたあなたの唇から噴出し、2メートルほど離れたところに、薔薇の

花のような渦を巻く。その深紅の薔薇は、火の元素の結晶体であり、あなたの旅路を照らす火の霊灯である。

四大の呼吸を終了した時点で、あなたの周囲には四つの霊灯がある。前方、東にタンポポのように浮遊する黄色い風の霊灯が、あなたの右手、南には深紅の薔薇に見紛う活発な火の霊灯が、あなたの背後には青い睡蓮の花に見える水の霊灯が、そして、あなたの左手、北の方角にはまだ青く強い生命力を模した麦穂に見える地の霊灯がある。

あなたは再び肉体と心の弛緩を確認し、自分のアストラル的姿形を形成する。まず、前方に光体を形成する。自らが輝く光の法衣を纏う様子を強く視覚化する。この光の法衣は、四方にある四大の霊灯と結びついている。

光の法衣の着用が終了したら、沈黙し儀式の背後にある意味を黙想しつつ待つ。

あなたは、自分の光体の身体を立ち上がらせ、肉体を脱ぎ捨てたまま、前に進む。そのとき、四大の霊灯は吸い寄せられたように、光体の間近に寄り。ちょうど肩の高さで前後左右を照らす。

あなたは光のトンネルを通過して、アストラル神殿の外庭に着地し、扉の前に立つ。マルクト神殿のヤキンとポアズの柱を通過し、青銅の扉に面すると、扉の表面に刻まれたI O Sの三文字が内側から光を発し、扉は音もなく両側に開く。

神殿の内陣広間に通じる廊室において、兄弟姉妹たちが集っている。

## 2 ウシャプティ

先頭に立ち、集まった参加者を振り返るPCが静かに命じる。「ウシャプティを纏うべし。」PCは、率先して「小神像（ウシャプティ）」を纏う。

すなわち頭頂の光球から光を拡散し、やわらかな膜のような形に引き延ばして、喉の光球に結びつけ、さらに胸と背を通して、胴の光球を振動させ、腰を振動させ、最後は足下の光球を振動させ、全身をひとつの巨大な光の膜で包み込んでしまう。その無定型のオーラの卵を好みの神、天使、神話的形態に変化させる。この場合は、司官は顔のないアケファロスの姿形をまとう。参加者は、文字通りエジプト神話の代理神像である直立した人間の姿をもつ霊的姿形を纏う。アケファロスの姿形をもつ参加者のひとりひとりには、自ら形成した四大の霊灯が寄り添い四色の光を放っている。

PCは、廊室の中央の扉をくぐり、本殿に入る。

兄弟たちは、廊室でしばし準備のできるのを待つことになる。

## 3 物見の塔の儀式

PCは、祭壇の西側に回り込む。自らのオーラを広間全体に広げる。そして、拡張した白く輝くオーラを保持したまま、小五芒星の追儼儀式を行う。

引き続き、小六芒星の追儼儀式を行う。

東に面し、開門の宣言を行う。

「ヘカス ヘカス エステ ベベロイ」

さらに、物見の塔の儀式を応用し、霊気を安定させる。

祭壇の南側に行き、南壁に背を向け、祭壇からランプを取り上げる。正面（北）、右（東）、左（西）と三方向にランプを振り言う。

「総ての幻影が去りし後に、宇宙の隠されし深みを飛翔する聖なる形なき炎を見るであろう。汝、火の声を聞け」

次に振り返り、祭壇を背中にし、南に面する。白と黒の柱の彼方に荒涼とした砂漠が広がる。直立した奇岩なのか、風化した巨石建造物なのか分からない、小山のような石の柱の間に、蜃気楼のようなオレンジ色のサラマンダーが闊歩している。

押し寄せる熱波に対面し、

自分の目の前に霊の能動の追儼の五芒星を描き、次の言葉を振動させる。

「B I T O M」

引き続き、五芒星の中心に霊のシギルを描き、神名を振動させる。

「A H I H」

L V Xサインを行う。

次に火の追儼の五芒星を描き、言葉を振動させる。

「O I P T E A A P E D O C E」

その中央に獅子宮のサインを書き、神名を振動させる。

「A L H I M」

P Cは、フィロソファスのサインを行う。

「大いなる南の四辺形の名前と文字において、われ汝を召喚す。汝、南の物見の塔の天使よ」

祭壇の西側へ行き、西壁を背に盃を取り上げる。三方向に盃の水を注ぎ言う。

「最初に、火の技を治めし祭司は、荒れ狂う海に清めの水を撒かねばならぬ」

次に振り返り、祭壇を背中にし、西に面する。白と黒の柱の彼方に、次々と波頭の押し寄せる大海原が広がっている。白い波頭は、蹄の代わりに水掻きの生えた水棲の馬である。その鱗の生えた蒼い肌の上に、海の乙女たちが豊かな胸乳をさらして、手綱を御している。

自分の目の前に霊の受動の追儼の五芒星を描き、次の言葉を振動させる。

「H C O M A」

引き続き、五芒星の中心に霊のシギルを描き、神名を振動させる。

「A G L A」

L V Xサインを行う。

次に水の追儼の五芒星を描き、言葉を振動させる。

「E M P E H A R S E L G A I O L」

その中央に鷲のサインを書き、神名を振動させる。

「A L」

P Cは、プラクティカスのサインを行う。

「大いなる西の四辺形の名前と文字において、われ汝を召喚す。汝、西の物見の塔の天使よ」

祭壇の東側に行き、東壁に背を向け、香炉を取り上げる。三方向に香炉を振り言う。

「かくのごとき炎、迸る《風》のなかにあらん。また、《声の似姿》を放つ形なき《火》、さらに声高に叫ぶ《渦巻く炎の光》のなかにもあり」

次に振り返り、祭壇を背中にし、東に面する。白と黒の柱の彼方に、丈の高いヒースの草原の緩やかな起伏が見える。その背後には黄塵と、流れ行く逞しい雲の連なりが広がり、黄色っぽい空の雲間には、半透明な存在の乱舞する様子が伺える。

自分の目の前に霊の能動の追儼の五芒星を描き、次の言葉を振動させる。

「E X A R P」

引き続き、五芒星の中心に霊のシギルを描き、神名を振動させる。

「A H I H」

L V Xサインを行う。

次に風の召喚の五芒星を描き、言葉を振動させる。

「O R O I B A H A O Z P I」

その中央に宝瓶宮のサインを書き、神名を振動させる。

「I H V H」

P Cは、セオリカスのサインを行う。

「大いなる東の四辺形の名前と文字において、われ汝を召喚す。汝、東の物見の塔の天使よ」

祭壇の北に行き、北壁に背を向け皿から塩をつまみ上げ、三方向に撒いて言う。

「暗き輝きの地界に屈み込むなかれ。そこには、背信の深みと、闇を纏う冥府王が不可解なるイメージに悦び、風猛き絶壁、黒く逆巻く深淵は、つねに光放たぬ形なき虚しき場に連れ去るものなり」

次に振り返り、祭壇を背中にし、北に面する。白と黒の柱の彼方に、峨々たる小暗い山脈が聳えている。緑の裾野には、無数の生命が満ちあふれているようだが、むしろ、黒い岩肌を晒した山肌に、煌めく金属的な光芒が散らついている。剥き出しの鉱脈の上をノームの工具が叩いているのだろう。

自分の目の前に霊の受動の追儼の五芒星を描き、次の言葉を振動させる。

「N A N T A」

引き続き、五芒星の中心に霊のシギルを描き、神名を振動させる。

「A G L A」

L V Xサインを行う。

次に地の追儼の五芒星を描き、言葉を振動させる。

「E M O R D I A L H E C T E G A」

その中央に金牛宮のサインを描き、神名を振動させる。

「A D N I」

P Cは、ジェレイターのサインを行う。

「大いなる北の四辺形の名前と文字において、われ汝を召喚す。汝、北の物見の塔の天使よ」

祭壇の西に行き東面する。深紅の薔薇で霊の能動と受動の召喚の五芒星を描く。

「EXARP        AH IH  
HCOMA        AGLA  
NANTA        AGLA  
BITOM        AH IH」

続けて言う。

「神秘なる統一のタブレットの名前と文字において、われ汝を召喚す。  
汝、生命の霊の神聖なる諸力よ」

花を置き、ヴェールを開くポータルサインを行う。

「われ汝を召喚す。汝、不可視の座に住まう天球の天使たちよ。  
汝は宇宙の門の守護者にして、またこの神秘なる球の守護者なり。  
邪悪なるもの、均衡を失いしものを遠ざけよ。  
永遠の神々の神秘の住居を汚さざるため、われに力と霊氣を与えよ。  
われがその中に入り、神聖なる光の秘密を分かたため、わが球を清浄かつ神聖たらしめよ」

PCは、魔法鏡の内部の安定し、活性化した霊氣を徐々に変容させていく。  
天使たちの降臨により、激発する直前まで高められた魔術師の意志が、神殿の外壁、すなわち  
拡張されたPCの魔法鏡の表面に、鮮やかな変幻する光を生む。それは虹のようにすべてのスペ  
クトラムを輝かせる。それと同時に白色を基調とした魔法鏡の内部の霊氣が、徐々に赤化し、黄  
土色のぼやけた色調から、黄金の光を放つようになる。魔法鏡の表面の極彩色の光芒も、色彩の  
輪郭が溶け合うと黄金色にかわり、魔術師の霊氣に統合された。広間は、黄金の光に満たされた。

## 4 入場及び宣言

これらが完全に成し遂げられたら、神殿の西の壁を背にして、東を向き合図の鈴を鳴らす。

PCの霊的な鈴の合図で、参加者の入場が始まる。  
兄弟たちは右側、すなわち南の壁際に立ち。姉妹は左側、北の壁際に立つ。

PCは、内側を向いたまま次の言葉を宣言する。  
PC：「I ∴ O ∴ S ∴ の兄弟姉妹たちよ。春分の儀式を開始せん。」

## 5 四大の献灯

PCは、参列者を見渡し、それぞれの霊灯を確認する。  
PCは、神殿広間の東壁に立ち、西を向いて言う。  
「I ∴ O ∴ S ∴ の兄弟姉妹たちよ。もちきたる元素の炎を神殿に献灯すべし。

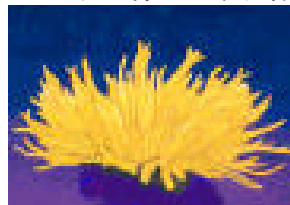
「まずは、風の灯火を捧げん。」

PCは反転し、自らの風の霊灯を下側から両手でくるみ込むように持ち上げ、言う。

「Fiat verbum halitus meus.  
Devoveo tibi, Conventus Sylvorum.  
風の光を東に。」

参列者は、同じく風の霊灯をすくい上げ、言う。

「Fiat verbum halitus meus.  
Devoveo tibi, Conventus Sylvorum.  
風の光を東に。」



参列者全員の手の中から黄色いタンポポに似た風の炎が浮遊し、東壁の天使像のステンドグラスの前において相互に融合し、ひとつの巨大な黄色い光を放つ花のような集合体となる。

「次に、火の灯火を捧げん。」

PCは右廻りに90度回転し、南面し、自らの火の霊灯を下側から両手でくるみ込むように持



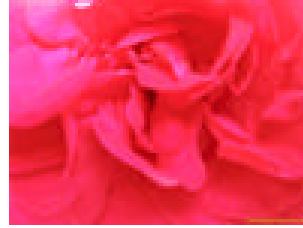
ち上げ、言う。

「Fiat verbum halitus meus.  
Devoveo tibi, Mysterium Salamandrae.  
火の光を南に。」

参列者は、同じく火の霊灯をすくい上げ、言う。

「Fiat verbum halitus meus.  
Devoveo tibi, Mysterium Salamandrae.  
火の光を南に。」

参列者全員の手の中から深紅の薔薇に似た火の炎が浮遊し、南壁の有翼の獅子のステンドグラスの前において相互に融合し、ひとつの巨大な深紅色の光を放つ花のような集合体となる。



「次に、水の灯火を捧げん。」

P Cは右廻りに90度回転し、西面し、自らの水の霊灯を下側から両手でくるみ込むように持ち上げ、言う。

「Fiat verbum halitus meus.  
Devoveo tibi, Verbum Pythonicum.  
水の光を西に。」

参列者は、同じく水の霊灯をすくい上げ、言う。

「Fiat verbum halitus meus.  
Devoveo tibi, Verbum Pythonicum.  
水の光を西に。」

参列者全員の手の中から睡蓮に似た青い炎が浮遊し、西壁の鷺のステンドグラスの前において相互に融合し、ひとつの巨大な青い光を放つ花のような集合体となる。



「最後に、地の灯火を捧げん。」

P Cは右廻りに90度回転し、北面し、自らの地の霊灯を下側から両手でくるみ込むように持ち上げ、言う。

「Fiat verbum halitus meus.  
Devoveo tibi, Antra Gnomorum.  
地の光を北に。」

参列者は、同じく地の霊灯をすくい上げ、言う。

「Fiat verbum halitus meus.  
Devoveo tibi, Antra Gnomorum.  
地の光を北に。」

参列者全員の手の中から緑の麦穂に似た緑の炎が浮遊し、北壁の有翼の牡牛のステンドグラスの前において相互に融合し、ひとつの巨大な緑の光を放つ麦穂のような集合体となる。



P Cは、さらに90度右回転し、東に面する。

「O Caput Mortuum. Sanctus Sanctus Sanctus ! Crux Elemental, Stella in Quater!  
正しく四方の霊灯は献灯されしなり。」

参列者はP Cに倣い、さらに90度回転し、東に面する。

「O Caput Mortuum. Sanctus Sanctus Sanctus ! Crux Elemental, Stella in Quater!  
正しく四方の霊灯は献灯されしなり。」

P Cは、宣言する。

## 6 トーラーの宰相の召喚

P C：「七つの封印を光体に刻印せん。」

P C：「聖なるかな汝、I I (ヨー)。

智慧と洞察をもて、天と地を造りし者よ。汝が名は永遠なり。

C h I A V P S I S I P I I A V L V S M B I K I I T h N I I

(カイ オーブ シシ パーウ ラブ サム ビー キー タナイー)

そは汝が下僕の名前なり。」

P Cは指を剣指をつくり、揃えた両膝に当てる。参加者もP Cの動作に倣う。

P C：「A V R I S S S T h I I (アブリース ススティイー)  
わが脚を封じる。」

全員：「わが脚を封じる。」

PC、参加者は剣指を心臓に当てる。

PC：「ABG BGG (アバグ バググ)  
わが心臓を封じる。」

全員：「わが心臓を封じる。」

PC、参加者は剣指を右肩に当てる。

PC：「ARIM ThIPA (アリム サイパ)  
わが右腕を封じる。」

全員：「わが右腕を封じる。」

PC、参加者は剣指を左肩に当てる。

PC：「AVRIS ThSI IAH (アブリース サシ イアー)  
わが左腕を封じる。」

全員：「わが左腕を封じる。」

PC、参加者は剣指を首に当てる。

PC：「ABITh ThL BG AR IIV DIVAL  
(アビース サル バグ アル ヨー ディヴェル)  
わが首を封じる。」

全員：「わが首を封じる。」

PC、参加者は両手を胸の前で組む。

PC：「AV PAK QITR SS AChD IDID IH  
(アウ パク キテル スス エイカド イダイダ ヤー)  
わが生命とすべての部分を守護するために。」

全員：「わが生命とすべての部分を守護するために。」

PC、参加者は両手を頭上高く差し出しV字を形造る。

PC：「AVP PTh IHV ChIV IV ZHV IHV ThIThS  
(オーブ プター ヤーホー カィウー ヨォー ザハウ ヤーホー サイサス)  
わが天蓋を封じる。」

全員：「わが天蓋を封じる。」

PC：「RIR GVG (リール ゴーグ)

大いなるもの

HP IP HP (ハーブ ヤープ ハープ)

清浄なるもの

HH IIV HHI HH HH (ハー イーウ ハーイ ハー ハー)

久遠の詠唱よ。

智慧の主を讃えよ。すべての権能は汝にあり。

聖なるかな汝、II (ヨー)。

無敵にして、至高、至上、大いなる支配者よ。」

七つの封印を完成したPCは、祭壇の西側から祭壇に向かい両手を広げて言う。

PC：「わが声を聞け。おお、主よ。

汝は、生成（ゲネシス）にして、始原（アルケ）なり。

名前なき、形なき者、万物の創造主、光と闇の主なり。

汝の真実の子、ShQDHVZIH（サクドゥザー）の祈りを聞き賜え。

汝が力を貸し賜え。

われは汝が光のなかで再生せんとす。

われは汝が光のなかで完成せんとす。

汝が天使ARPDs（アルパデス）は語れり。

三つの御名を唱えることなく、主の御座に至るなかれ。

そは、次なる名なり。

SDIR ThINRI AI (サディル ティンリ アイ)

IBIA BIHV SVVTz (イバイアー ビホー スゥーツ)

DVP RVP DChM (ドゥバ ルアパ ダカム)」

PC：「汝は、われらの父にして、われらの母なり。  
われらの栄光にして、われらの輝ける自己が顕現する。  
そは本然の性、始原の光体なり。」

PC：「わが声を聞け。おお、主よ。  
汝は、生成（ゲネシス）にして、始原（アルケ）なり。  
名前なき、形なき者、万物の創造主、光と闇の主なり。  
汝が律法の宰相 ShR HTh VRH（サル ハ・トーラ）は語れり。  
三つの御名を唱えることなく、主の御座に至るなかれ。  
そは、次なる名なり。  
Z T z T I T z Z R Z I A L （ザッツ ティズ ザルジエル）  
T h I T h T h V P I L T I R B T h （ティス トゥピルティ ラブス）  
I P A A R C h R Z I O A O I Z V Z  
（ヤパー アルカル ジアー アイザズ）」

PC：「汝は、彗星より火を借り、光の戦を率いる者なり。  
われらが足下に大地が見え、また天も見えるなり。  
そは本然の性、始原の光体なり。」

PC：「わが声を聞け。おお、主よ。  
汝は、生成（ゲネシス）にして、始原（アルケ）なり。  
名前なき、形なき者、万物の創造主、光と闇の主なり。  
汝が顕現の天使 M L A K H P N I M（マラキ ハ・パニム）は語れり。  
三つの言葉を唱えることなく、主の御座に至るなかれ。  
そは、次なる名なり。  
G L I A I I （グライ アイイー）  
A R D R I H A L （アルダル ヤホエル）  
Z K B B I B A （ザク ババイバ）」

PC：「汝は、夜明けの薄明にして、黄昏の薄明なり。  
われらが影のはずれに来たとき、太陽はわれらの頭上にあり。  
そは本然の性、始原の光体なり。」

PC：「わが声を聞け。おお、主よ。  
汝は、生成（ゲネシス）にして、始原（アルケ）なり。  
名前なき、形なき者、万物の創造主、光と闇の主なり。  
汝が主の御座の車輪 G L G L I H M R K B H（ギルグリ ハ・メルカバー）は、  
玉座の前で歌えり。  
三つの言葉を唱えることなく、主の御座に至るなかれ。  
そは、次なる名なり。  
H T z P Z I P A （ハツ パジパ）  
H P I A V （ハパ イアウ）  
G H V A S h B I B A（ガホア セバイバ）」

PC：「汝は、月の秘薬たる光にして、太陽の秘薬たる光の光なり。  
われらが玄妙なる物質の心的王国を越えるとき約束は成就せん。  
そは本然の性、始原の光体なり。」

PC：「汝は、われらが主にして王、至高至聖なる霊なり。  
汝、燦然たる神の光を身に帯びたる者よ。  
汝は聖霊の天の父にして、宇宙の母なり、しかして、心の天の子なり。  
われらは汝を召喚し、汝に満たされんとす。  
汝、隠れたる者、H D I R I R V M（ハディリルム）！  
この血に降下し賜え。  
汝、本性の知らざれし者、A L R V Z I I I V I（エル ルズィー イヨー）！  
この肉に降下し賜え。  
汝、かくのごとき者、H G G B V B I H I H V（ハググブブ ヤー ヤオー）！  
この骨に降下し賜え。  
I H V S h H（ヨド・ヘー・ヴァウ・シン・ヘー）

われらは戴冠せる王、天と地の支配者とならん。  
I H S h V H (ヨド・ヘー・シン・ヴァウ・ヘー)  
われらは万軍の将、天と地の支配者とならん。」

祭壇の傍らにいるP Cの上に覆い被さるように出現する巨大な天使の像がウシャブティを呑み込む。アケファロスの顔のないオーラに、トーラーの宰相のテレズマ的姿形が融合し、再形成されてP Cの霊的外形が急激に変化する。

P Cが宣言する。

P C：「われは、聖なる五つの文字に表象される無敵の一者なり。  
五界を結ぶは、われなり。  
諸天界へ上昇せるは、われなり。」

## 7 エグレゴレの召喚

P Cは東を向いて宣言する。  
「ここにI ∴ O ∴ S ∴のエグレゴレを召喚せん。」

P Cは、東に行き、杖で東の壁に薔薇十字の印形を描く。  
「東に投影されしは、双子の天使  
エノクの第三書に曰く、  
そは太陽と月、星々と星座を引き下ろす者なり。  
汝は星々を統括する役割を果たしたり。  
星辰の光とともに団の知識を伝達する。  
宇宙の神秘を開き、また、隠す者なり。」



風に揺らめくタンポポのような黄色の霊灯を背景に、  
双子の人型の天使が東の壁に朧な姿を投影する。  
それは団のエグレゴレの四半分、風に象徴される集合靈魂  
の機能であった。

P Cは、南に行き、杖で南壁に薔薇十字の印形を描く。  
「南に投影されしは、燃える意志の翼である。  
エノクの第三書に曰く、  
右手には炎の隊列があり、  
左手には炎の柱がたつ。  
前方には暴風と嵐が待ちかまえ  
後方には雷鳴と地鳴りが咆吼せり。  
汝は、行動にて団の意志を示すものなり。」



半透明な深紅の薔薇のような霊灯を背景に、炎の塊が空間  
を切り裂いて飛翔する。  
それは団のエグレゴレの四半分、火に象徴される集合靈魂の機能であった。

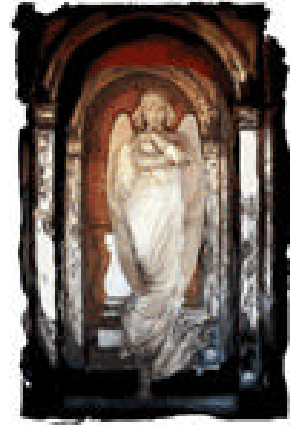
P Cは、西に行き、杖で西壁に薔薇十字の印形を描く。  
「西に投影されしは、満ち引きする生命の翼である。  
エノクの第三書に曰く、  
七つの宮殿から炎の河が溢れ出で、  
火と水は常に流れたり。  
汝は、流動する霊の河を差配せり。  
汝は、団の継続する生命である。」



睡蓮のような青い霊灯を背景に、大きく広げた蝶の羽に似た  
外観の天使が投影される。  
それは団のエグレゴレの四半分、水に象徴される集合靈魂の機能であった。



PCは、北に行き、杖で北壁に薔薇十字の印形を描く。  
 「北に投影されしは、  
 秘密の書庫より出現する智慧の管理者である。  
 エノクの第三書に曰く、  
 すべての秘密を知る者にして、  
 世の賢者に知識を与え、  
 世の探求者に理解を与える。  
 汝は、団の秘密の管理者である。」



未成熟の麦穂のような緑の霊灯を背景に封印された書庫の前に立つ人型の天使が憂鬱な表情で現れる。  
 それは団のエグレゴレの四半分、地に象徴される集合靈魂の機能であった。

PCは、祭壇の西に行き東を向く。  
 「四方に投影されし、団のエグレゴレよ。  
 今ここに、そを一つに束ね大いなる影の貴婦人の姿を投影させん。  
 הוֹיָהּ בֵּין כּוֹל בְּרָאשֵׁהֶיָּת יְהִי אֹרֶךְ יְהִי יְהִי  
 (ホイヤー・ビン・コル・ベラシト・イヤー・オール・ヴェ・イヤー・イヤー)」



巨大な女性形の天使が神殿の上空に投影される。喪服に似た黒いドレスを纏い、ゆたかな銀色の髪を肩まで垂らした天使の宰相 (מַלְאָכִי הַשָּׂרָר) である。その端正な美貌は、うしなわれた地上のエルサレムを悲しむ黒衣の婦人像のようでもあり、天使ガブリエルの影の位相のようでもある。

「未生の赤子の母、団のエグレゴレよ。われらの試みを助けよ。」

## 8 春分の主祭

PCは、神殿の東側から中央を向いて言う。

PC：「祭壇に宇宙の軸を召喚せん。  
 I a H a V a H a (ヤアー・ハアー・ヴァー・ハアー)  
 H e V e H e I e (ヘイ・ヴェイ・ヘイ・イエイ)  
 V o H o I o H o (ヴォー・ホォー・イョー・ホォー)  
 H I H V (ヘー・ヨド・ヘー・ヴァウ)」

PCが宣言する。

PC：「大いなる周行をもって、祭壇に集中せん。」

祭壇を軸として、3度周行する。

PC：「神秘なる周行は完成し、昼と夜は均衡した。春分は到来せり。」

PCは、祭壇の東に廻り、西に向かってホルスのサインを行う。

PC：「深き闇に拝礼す。光は闇より生まれたり。神殿の古きパスワードは・・・なり。」

PCは、祭壇の西に廻り、東に向かってハーポクラテスのサインを行う。

PC：「全き光に拝礼す。闇は光に内在せり。神殿の新しきパスワードは・・・なり。」

PC：「パスワードは交換された。」

全員が祭壇を取り囲む。

PC：「腕を組み、手と手を取りて、われらのオーラをひとつに融け合わせよう。  
無敵なる主の顕現にあずかりて、われらの靈魂をひとつとなし、  
そをもちて、この神殿は栄光の場とならん。」

全員が手を組み輪のなかに祭壇を包み込む。

手を放すことなく次を唱える。

全員：「主よ。われらは自らを捧げん。

わが心臓と靈魂は、汝への絶ゆることなき供物とならん。

汝が御手の技の裔を受け、汝の意志のままに与え、奪いたまえ。アーメン。」

全員、東を向く。

全員：「聖なるかな、汝、宇宙の主よ！

聖なるかな、汝、自然の造らざる者よ！

聖なるかな、汝、広大にして強大なる者よ！

光と闇の主よ。」

PC：「聖なる場に神秘なる逆周行を起こさん。」

全員がPCに続き三度周行し、左回りの渦が形成された。

PCが発言する。

PC：「神秘なる逆周行は完成した。」

## 9 諸天使の出立

PCは祭壇の西に行き、東を向く。

PC：「エグレゴレの加護に感謝せん。  
団の靈的機能たる沈黙の貴婦人よ。  
われらの集合靈魂に戻りたまえ。」

PCは再度、祭壇の西に行き、東を向く。

PC：「聖なる五つの文字に表象される長老たちよ。

I H S h V H (ヨド・ヘー・シン・ヴァウ・ヘー)

万軍の将、靈の虚の場所に住まわん。

I H V S h H (ヨド・ヘー・ヴァウ・シン・ヘー)

戴冠せる王、靈の虚の場所に住まわん。

光と闇の轆轤を逆転し、魔術師の肉体を脱ぎ捨て、光へと帰還せん。」

PC：「主よ、われらの賛歌を聞きたまえ。宇宙の韻律と調和に、感謝を捧げん。  
主の聖靈は、森羅万象の上にあり、下にあり、内にあり、外にもある。  
主よ、生ける靈と人の子らに、法悦と祝福を与えたまえ。  
律法の宰相は、肉の衣を去れり。」

全員：「主よ、われらに祝福あれ。われらは絶えることなく汝を称えん。」

## 10 献灯の消灯及び地上への帰還

PC：「人の子らよ。律法の宰相は、去れり。  
大いなる感謝の念を抱きつつ、四大の献灯を消灯せん。」

PC：「四大の元素の炎よ。汝らの領域に、人の交わらぬ場所に還元せん。」

この言葉とともに、参列者の頭上高く四方向で燃えていた元素の炎は、徐々に希薄化、分散しながら高度を落とし始めた。全員が目線を越えるときは、明瞭な姿かたちを喪い。さらに降下していき、臙気な雲か、蒸気のような塊になり床に呑み込まれていく。

そのとき、すべての参列者は、霊灯と自分の間にあったリンクが切れ、元素の光が四大の別院のなかで、もとの元素界に再度吸収されたことを感じとった。

PC：「献灯は消灯せり。されば、地上に帰還せん。」

PCは《ヴェールを閉じる》サインを行う。

PC：「IHShVHとIHVShHの御名において、  
この儀式により拘束されし、すべての《霊》を解放せん。」

PC：「われは宣言する。神殿作業は終了せり。」

全員：「神殿作業は終了せり。アーメン。」

神殿の外へ出る。神殿の外庭でウシャブティを解放し、光の洞窟を通過して光体は自分の部屋に戻る。静かに肉体に戻る。四肢の感覚が戻ったところで、光の法衣を脱ぐ。（特別な手順は必要ない。）静かに目を開き、立ち上がる。

法衣を着用している場合は、沈黙のうちに着替える。

普段着に戻り、儀式についての個人的メモ（『魔法日記』用）を終わるまで、この沈黙が続けるのが望ましい。その後は、軽い食事、飲み物等を採り、地上に帰還したことを自分自身に印象づけること。

VERBORUM PUBLICA  
I : O : S :  
RITUALE DE  
AEQUINOCTIO VERO IVA

IMPRIMI POTEST: I : O : S :  
NIHIL OBSTAT QUOMINUS IMPRIMATUR  
IMPRIMATUR : M.E.S.A. 5=6  
MARTIUS MCMXCIV

春分儀式 VE04A

Copyrights © All rights reserved I : O : S : 2004

2004年3月14日 I : O : S : 発行

本文書は、複数のまたは個人の団員が、魔術実践の練習のために使用するものであり、I : O : S : の公式儀式手順書ではない。従って、本儀式を公に実施するテンプル、ロッジはその旨を会員に明確に告示する必要がある。しかし、それは同時に本文書を利用した会員の自由な実践活動を妨げるものではない。会員外の使用については、I : O : S : の許可が必要である。本文書の著作権は団に所属する。本文書の内容の一部または全部を、団の文書による許可なく、機械的、電子的、光学的、霊的、その他の手段で複製、引用、転写することを禁じる。